

# ビンナガ 南大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

### 最近一年間の動き

2012 年 10 月に大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) 科学委員会 (SCRS) が開催され、各国から 2011 年の漁獲量が報告された。2011 年の漁獲量は 2.4 万トンであり、過去 5 年平均より高い漁獲量となった。

- ### 生物学的特性
- 寿命：10 歳以上
  - 成熟開始年齢：5 歳頃
  - 産卵場：南緯 10 ～ 25 度の南米大陸寄り
  - 索餌場：温帯域
  - 食性：魚類、甲殻類、頭足類
  - 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

### 利用・用途

刺身や缶詰原料とされる。

### 漁業の特徴

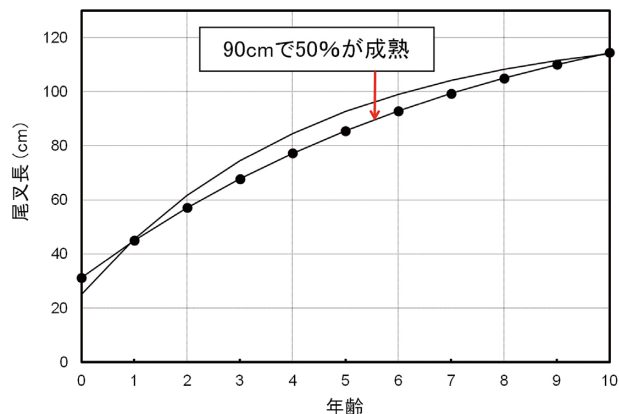
南大西洋のビンナガは、台湾（はえ縄）及び南アフリカ（竿釣り）によって主として漁獲されており、ブラジル、ナミビアがこれに次ぐ。特に台湾のはえ縄の割合は高く、1973 年以降総漁獲量の 6 ～ 9 割を占めてきた。台湾のはえ縄は伝統的にビンナガを主対象とした操業が行われており、亜熱帯から温帯域の広い海域で周年操業している。

### 漁業資源の動向

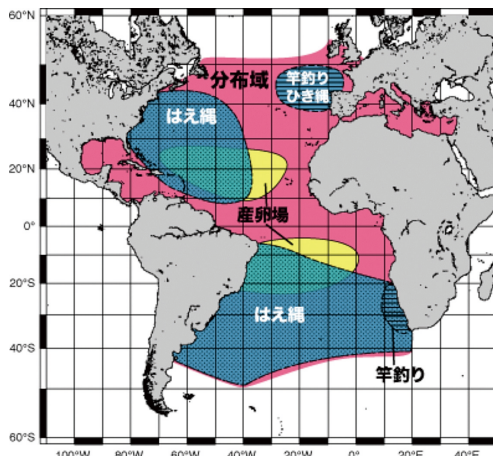
総漁獲量は 1960 ～ 1970 年代にはおよそ 2.0 ～ 3.5 万トンの範囲で推移していたが、1980 年代後半～2000 年代の初めごろには 2.6 ～ 4.0 万トンとより高い水準となった。その後総漁獲量はかなり急激に減少し、2005 年に過去 20 年で最低となる 1.9 万トンとなり、その後は 1.9 ～ 2.4 万トンの範囲で推移している。2010 年には前年から約 4 千トン減少し、1.9 万トンとなった。2000 年代中頃からの総漁獲量の変動は主として、表層漁業の年々の漁獲量の変動によるものである。

### 資源状態

2011 年に行われた最新の資源評価では、MSY は 27,964 トン（範囲 23,296 ～ 98,371 トン）、 $B/B_{MSY}$  は 0.88（範囲 0.55 ～ 1.59）、 $F/F_{MSY}$  は 1.07（範囲 0.44 ～ 1.95）と推定された。これらの信頼限界の幅は広く、不確実性が大きいと考えられた。過剰漁獲でありかつ乱獲状態である確率は 54%、過剰漁獲もしくは乱獲状態である確率は 10%、過剰漁獲ではなくかつ乱獲状態でもない確率は 36% であることが示された。将来予測では、これまでの TAC (29,900 トン) で漁獲した場合、資源はより悪化するが、近年の漁獲量で漁獲した場合、資源量は 5 年後には 50%、10 年後には 60% の確率で資源量が MSY レベルを上回ると推定された。



南大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係  
太線は Lee and Yeh (2007) 細線は Bard and Compean-Jimenez (1980)



南大西洋のビンナガの分布と主な漁場

### 管理方策

2011 年の ICCAT の年次会合では、それまで 29,900 トンだった TAC を減少させ、2012 ~ 2013 年の TAC を 24,000 トンとする決定をした。日本についての漁獲量は南大西洋（北緯 5 度以南）におけるはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下になるよう努力するというこれまでと同様の規制が課せられた。また、漁獲国には事務局への迅速な漁獲実績の通報が義務づけられた。

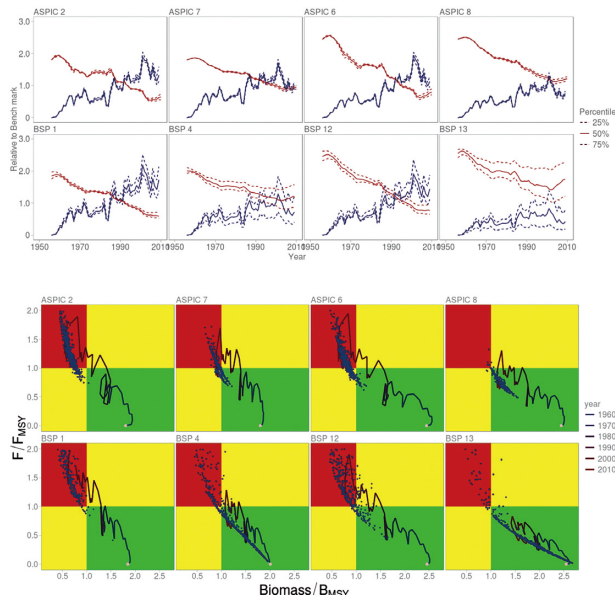
### 資源評価まとめ

- 2009 年の資源量は MSY レベルよりも低く、 $B_{MSY}$  の約 88%。
- 2009 年の漁獲係数は MSY レベルよりも高く、 $F_{MSY}$  の約 107%。

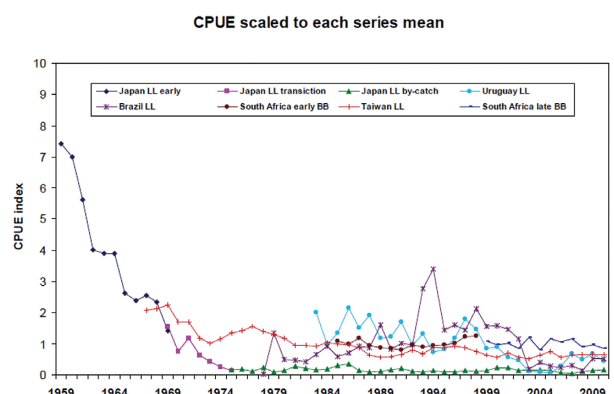
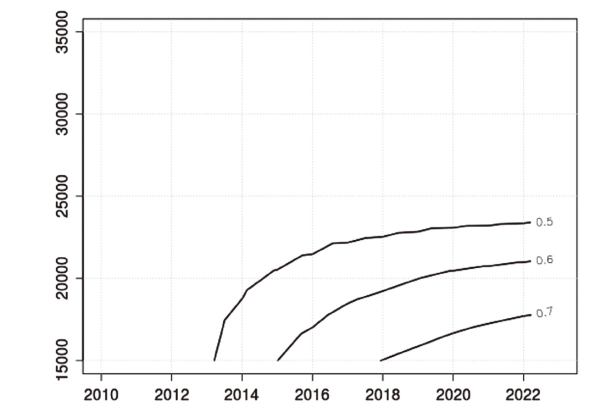
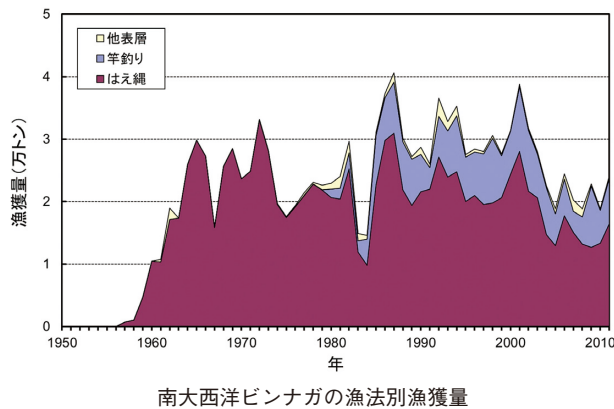
### 資源管理方策まとめ

- 2012 年 ~ 2013 年の TAC は 24,000 トン。

日本は、ビンナガの漁獲量を南大西洋のはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下にするよう努力するという規制が課せられている。



上: ASPIC モデル及び BSP モデルから得られた MSY レベルを 1.0 としたときの資源量 (赤) と漁獲係数 (青) の相対値。実線は点推定値 (ASPIC モデル) もしくはメジアン (BSP モデル)、点線は 50% 信頼区間。下: ASPIC モデル及び BSP モデルから得られた資源状態を表す MSY を基準とした相対漁獲計数 ( $F/F_{MSY}$ ) と相対資源量 ( $B/B_{MSY}$ ) との間の位置関係 (いわゆる Kobe プロット、実線) ならびに 2009 年の推定値まわりのばらつき具合。



標準化された CPUE。各国のはえ縄は親魚を漁獲し、南アフリカの竿釣りは未成魚を漁獲する。

将来予測の結果、資源量及び漁獲係数が Kobe プロットにおけるグリーンゾーンに落ちる確率を年と将来の漁獲量水準の軸に対して等確率線であらわしたものを。確率は 8 つのシナリオすべてを用いて推定された。

ビンナガ (南大西洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1.9 ~ 2.4 万トン 平均: 2.1 万トン (2007 ~ 2011 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	238 ~ 1,370 トン 平均: 946 トン (2007 ~ 2011 年)